

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：元島田自治会

開催場所：元島田公会堂

開催日時：平成 28 年 2 月 10 日（水）19 時 00 分～21 時 15 分

参加者：自治会側【地域住民の方 48 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

#### ① 松下元島田自治会長あいさつ

・大変冷え込む中、お仕事でお疲れのところ御苦勞様です。市長も 3 年目で、今までは尻拭いのようなことで自分のカラーが出せなかったと思うが、ようやく 3 年が経って、染谷カラーが出てきたのではないかと思う。本日は車座トークということで、市長の市政報告、皆様には市長のお話の後、意見交換ということもあるので皆さんからの御意見をお願いしたいと思う。よろしくお願いします。

#### ②市長からの市政報告

##### ■はじめに

・車座トークは 5 回目となった。68 の自治会を 68 週間かけて全部回るという意気込みで回っている。それぞれの地域が抱える課題というのは、地域によって差がある。出てくる問題も違うし、その町の雰囲気も違う。その地域にどっぷりつかって、その地域が課題だと思っていることをお話をいただき、私の考え方もお伝えする。そういったやり取りをしている。今日は若い女性の方たちも来ていただいている。これまでも何度もやっているが、女性がたくさんいても若い女性が多いということはあまりない。今回は若い女性の方がお見えになっているので、放課後児童クラブや保育園とか、そんな話も触れてみたいと思う。

##### ■市政運営について

・市長になってから 3 度目の春となる。市長になるとき、皆様にどんなことをお約束してなったかということ振り返ってみたいと思うが、あの時、私は、「変えよう島田」ということを、スローガンにして「安心安全な都市島田」をつくるんだ、だれもが安心して住み続けられるふるさと島田をつくる、市民の皆様にも、周辺の市町にも信頼できる島田をつくります、ということをお話した。そのためにクリーンな市政をしますよ、ということをお約束して市長になった。市長になったときに最初の所信表明とあって、自分はどんな市政を志しているのかということ議会でお話をする。その所信表明のときに 4 つの柱でお約束をした。その 4 つとは、「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、「市政の透明性を高めるための情報公開」、「広域行政の推進」、「財政の健全化」を訴えた。

・10年前でも、3年前でもそうだが、日本がこんなにも急激に少子高齢化が進み、高齢化は特に高くなってきて、子どもの数は少なくなってきて、働く世代が人口の半分以上になってしまおうというような時代が来ることについて、知らなかったわけではないが、皆がこれほど意識したのは、一昨年に「消滅可能性都市」という言葉が出て、全国に1,700の自治体があるが、そのうちの896、49.6%、約半分のまちが2040年にはなくなってしまうんじゃないかというショッキングなレポートが出てからだった。

・あのレポートは、今、どんなに人口がたくさんある街であっても、そこに若い人が住んでなかったら、50年後には誰もいなくなっちゃうよというレポートだった。

・その後、国も地方創生、そして各自治体には総合戦略をたてるようにと、矢継ぎ早の国からの通達があり、島田も昨年「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」をたてた。こうした時代の急激な変化ということは、ある意味、行政の役割も変わってきている。そういう時代になった。

・議員の役割は、昔は地域の代表で、地域が「こうしてほしい、ああしてほしい。」ということを行政に届けて、それを実現するために一生懸命がんばってくださるという役割が大きかったという気がする。しかし、今、行政は、昔、街の中に都市計画道路づくり、ここが商業地域、ここは工業地域、ここは住宅地にしますというような分け方をして、色々な規制をかけてきた。なぜかというと、人口がどんどん増えて、経済がどんどん大きくなっていく時代、土地がどんどん高くなっていく時代には、規制をかけないと乱開発されてしまうから規制をかけることが行政の仕事だった。今や、土地は大きく上がることはない。人口も減っていく。空き家もどんどん増えていく。そうした時代の行政の役割は、規制をかけたり管理をするということではなくて、民間の方たちが、いかにやり易いように行政が規制緩和したり、様々なお手伝いをして民間が活発に動けるようなお手伝いをしていくことが行政の役割になってきた。

・議員さんも行政と一緒にまちづくりをしていくということは、「あれやってほしい。これやってほしい。」と行政に言うばかりではなくて、自分たちも動いて街を創っていく、そういう時代になったと私は思っている。

・そういう中で、私に課せられた役割は一体なんだったんだろうかということはこの2年半経って思った。一つは、「リセットする。チェンジする。」ということ。例えば、病院の街中移転も選挙の争点であった。こうしたものをリセットすること、私が選ばれた仕事の一つだと思っている。しかし、それだけではないと思っていて、実はいつも森昌也さんのことを思い出す。

・森昌也先生は、昭和28年という私が生まれる前に島田の市長になられた方。市長になった時の御挨拶で、「市民の手による市民のための市政」を実現するために市長になったとお話された。昭和48年にお辞めになるときには、「島田は小さなまちではあるけれども、世界に輝く国際都市なんだ」ということをおっしゃって、自分は量的に発展するまち、すなわち、景気のいい右肩上がりの時代に様々な企業誘致をし、色々なものを建て、量的に面として整備する市政を実現してきたけれども、その上にたつて、これから必要なのは、量的な発展だけではなく、そこにいかに質的発展を載せていくかということが、これからの政治の課題なんだということをおっしゃってお辞めになった。

・私は、森さんが市長になられてから60年目という節目に、3年前の5月10日に公開討論会が開催され、その時にも森さんの話をさせていただいた。今、森さんの時代とは全く違う。森さんの時代は、土地がどんどん上がって、人口もどんどん増えて、景気もどんどんよくなって、借金残しても次の時代の人たちがちゃんと返していける時代だった。わずか40年。その間に、全くその裏から見るような、そういった社会を私は引き継いだ。すなわち、やり方。

行政のやり方も、昔と同じことをやっていたのでは、皆様が豊かな質的に発展した島田はつukれないと私は思った。森さんがおっしゃった、「市民の手による市民のための市政」を実現するというので、新しい価値観を創っていかうと思っている。

・行政は10年先、20年先の島田に責任を持たなければならないから、自分の時代だけがよければいいわけではない。今、生きている自分たちもそうであるし、市長の任期であるこの4年間も同じ。10年先の島田、自分の子どもや孫の時代に、この島田がどうあってほしいのかということを考えながらやっていかなければならない。ということは、今、自分たちが生きている色々な課題は、自分たちの力で自分たちのお金で何とか解決していくという道をベースに考えていかななくてはならない。

・したがって、財政的には締めるところは締めている。蓄える力をしっかりしなければ、その蓄えを使うときに財源がない。それで市民の皆様に心配をかけることがあってはならない。

・今、病院の建設が間近に迫ってきている。新東名島田金谷インターチェンジ周辺の土地利用等も新聞に大きく報道されているところ。金谷の台地の開発であるとか、街の中でもこれから新たな開発を進めていく場所もある。そうしたことにしっかりと投資できる財源を蓄えるために、去年の3月、市役所の庁舎は築53年経つが、当面の間は使い続けるという判断をした。本当ならば、合併特例債が使えるうちに市役所の庁舎を建替えたほうが、財源としては得かもしれない。しかし、そうすると病院の返済と市役所を建てた返済が重なって、市の財政が、自主財源で投資できるお金が少なくなってしまう。したがって、病院の建設が終わって最初の5年は、医療機器、約50億円は最初の5年で返さなくてはならない。その大変な時期を越えた時に市役所を何とか考えようという思いを持って、先のことを考えれば、そういう選択をしなければならないと思った。

・市民会館も2年ばかり今のままで放置していたので、市民の皆様からは、「つukらないなら早く壊して駐車場にきなさい。」「早く市民会館を建替えてほしい。」といった御意見をたくさんいただいた。

・市役所を建てるとしたら、今の市民会館の場所しかない。壊して建て直すのなら、国の補助金も出る。国の制度もまだまだ後手で、次に新しいものをつくるのなら補助金が出る。今、増えすぎた公共施設をつぶすだけだったら何にも補助金を出さないというのが今の国のあり方。国も制度をかえていくでしょう。でも、今やっと、建物を壊す、償却をするために市債といって借金をしてもいいよという制度ができた。そういったことも使って、この4月から本格的になるが、工事が始まるのは5月になってからかもしれない。市民会館は更地にする工事が始まる。できれば島田の大祭までに間に合わせたいと思っているが、少なくとも10月末までには駐車場になるのではないかな。広々とした駐車場と、イベント広場、防災基地等に使えるようにしたいと思っている。

・一方、おおりの1階に入っている「社会福祉協議会」が、市民会館の向かい側、第三地区の区画整理の時に市が代替地として用意した場所。商店さんを入れたり、住んでいただいたりした建物があるところを、壊して、この壊すのは3月までに壊して更地にする。4月以降は、社会福祉協議会の自主財源で、新家屋を建ててもらおう。土地は島田市の土地だが、上物は社会福祉協議会が造るという中で、10月には社会福祉協議会は新たに市民会館の向かいにできあがる。

・そうすると、おおりの1階が空くので、そこに、来年の1月頃に教育委員会を持ってくる予定。金谷の庁舎に残して欲しいという金谷地区の方々の御意見もたくさんいただいている。一時的にはおおりに持ってこなければならぬ理由がある。金谷庁舎は耐震性がない上にエアコン等も壊れてしまっ

いて、そのエアコンの修理代に6,000万円以上のお金がかかることがわかった。耐震性がないことがわかっていながらエアコンに6,000万円かけるわけにもいかない。このため、教育委員会を一度、こちらに戻して、その次の段階で金谷庁舎を考えたいと思っている。

・3月までに公共施設の再配置計画をお示しする予定でいるが、50年かけて18%から20%の（公共施設を）削減をしていくことになる。最初の10年でどの程度の削減ができるのかというような目標数を示していくことになる。このまま使い続けると、この50年間に公共施設を維持管理するのに1,600億円以上のお金がかかるという試算が出ている。やはりこれを平準化して、長寿命化も重ねながら、将来の人たちに負担が少なくなるような段取りをつけていきたいと思っている。

#### ■新病院の建設について（その1）

・平成27年度に基本計画を策定し、平成28年度は基本設計に入っていく。

・先日、基本設計の業者の公募を締め切った。全国的に名だたる病院の設計事務所が手を挙げてきている。第一次審査が終わった後、3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、一次審査を過ぎた病院の設計の提案（プロポーザル）を一般公開（全面公開）で行う。市民の皆様にも、是非、今の新たな病院のコンセプトや工夫がどのようにされて提案されるのか聞いていただきたい。一つの提案に概ね1時間はかかると思うので、一次審査にいくつ通るかかわからないが、朝9時から順次やっていく。議員の皆様、市の幹部職員にも参加してほしいし、市民の皆様にも是非、聞いてもらって、どういう病院ができるのかという話を共に共有していきたいと思っている。これが先ほど申し上げた情報開示の一つである。

・新病院は、駐車場のところに造りますということ、病床数を445床にしますということ、精神科は再開が難しいということ、療養病床を今、35床あるが、これをなくして次の行き先が決まるまでの患者さんは一般病床で診る。その理由は、市民病院はよそから療養の患者さんが入院してくるような病院ではない。急性期の病院なので、少し良くなっても、高齢等で自宅へは帰れないという方が、次の施設や病院に行くまでの期間、調整するというかたちで使われている。長く入院されている方は、1～2人である。この方々は、新しい市民病院ができて市民病院で面倒を見る。

・国は2025年（団塊の世代の人たちが皆、後期高齢者になる年。）を目指して、国は大きく医療制度改革を行おうとしている。国の医療費は毎年1兆円ずつ増えている。国も借金が多くなってきて、道路や公共施設に回るお金も減ってきている。医療、介護、福祉にかかるお金がどんどん膨らむのは、国も市も同じ。そういう時代にあって、これまで病院で亡くなる方たちが多かった。これを在宅へという流れとなる。本当に悪くなったときだけ病院で診る。そして急性期の病院の入院日数は、今、平均14日くらいであるが、これを9～10日くらいに縮めたいという国の目標がある。

・厚生労働省案では、病院丸ごと機能別ということを行っている。すなわち、島田の市民病院は急性期の病院。慢性期の病院はどことこの病院。回復期の病院はどことこの病院というように、患者さんが一つの病院で、急性期を抜けたら回復期になってリハビリやって慢性期に入ったり、一つの病院の中で回っていた。その患者さんを、今度は、病院ごとに移していこうという考え方を持っている。今は、島田の市民病院も、病院丸ごと7：1といって、急性期の病院なので、患者さん7人に対して、看護師を1人以上つけるという急性期の病院のシフトで診療報酬等もいただいている。今度は、病棟別になる。外科の病棟、内科の病棟というふうになってくると、療養期の病床等は7：1ではなく、13：1とか14：1とかになってきて、国が目指す救急病院とし

での役割というところから違うものも組み込まれているという中で、診療報酬等の算定等もずいぶん変わってくる。このような様々な課題があつて、療養病床はよその病院を紹介する、連携をとって移していくということを決めた。

#### ■医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）

・市では28年度から「24時間訪問看護ステーション」を創る。これは、今まで健康づくり課がやっていた訪問看護ステーションと病院がやっていた訪問看護ステーションを統合して、病院の健診センターの3階部分に「24時間訪問看護ステーション」をおいて、先生方の指示に従って、医療行為ができる看護師が24時間、皆様のところに伺って医療行為をするということになる。

・これは、患者さんのためだけではなくて、市内の開業医のお医者さんのためにもこうしなくてはならない状況になってきている。島田の医師会の先生は40から41人くらいであるが、高齢化が進み、ドクターの娘さんや息子さんもお医者さんという方がいるが、島田市に戻ってきて、お父さんの後を継ぐということが少ないというのが現状で、往診ができない状況となってきている。金谷、川根も含めて往診できる先生は9人と聞いている。5年後にこのうち何人がそれをやってくれるかとなると、これもまた厳しい状況になってくる。こうしたことも併せて「24時間訪問看護ステーション」を創っていくということを決めた。また、地域包括ケアシステムというものを創りながら、各中学校区ごとに高齢者の方やお一人暮らしの方、子育てで困っている方も含めて、地域の問題を統括していく地域包括ステーションをつくっていく。そういうやり方の中で、これからの医療体制を維持していきたいと考えている。

#### ■新病院の建設について（その2）

・市民病院のことに戻るが、先ほど東側の駐車場の方に造りたいという話をした。そうしたところ、議会からよく言われたのは、変形の病院を建ててどうするんだ。あるいは真ん中に道が通っているじゃないかということも言われた。あの真ん中を通っている道路は付け替える。あの道路は一面の土地とするが、病院が真四角でならないかという、全国的に新たに建てられている病院というのは、真四角な土地に三角だったり、円型だったり、腕を広げたような病院だったり、様々な形の病院が建っていて、形というよりも、患者さんや、医師やナースの導線や使い勝手がいい病院ができればいいわけである。そういう提案を設計業者の中から出されてくるというわけである。

・病院の屋上には、ヘリポートを地元の皆様の御理解を得ながら、造りたいと考えている。今の救急棟と北側にある健診センターは、まだ新しいので残す予定。検診センターの方は、今の計画では、透析の患者さんも増えてきているので、1階部分を大規模な透析センターにしたいと思っている。屋上に入ったドクターヘリがすぐ下に降りた本館の中に救急センターを設け、手術室等を設けていくというような考え方を持っている。これらは、これからの設計業者の提案の中で、その提案のとおりにするわけではないが、より良いコンセプトを持った業者と契約して市民病院がこれからどんな病院でありたいかを行政側、病院側の先生方の御意見も入れながら、病院の設計というのは詳しくできていく。28年は基本設計。29年は詳細設計といって細かな設計に入る。30年度から本格的に工事が始まり、32年に開院を目指すということになっている。

・445床、247億円という予算規模を示しているが、専門家の先生方を交えながら、できるだけコストダウンしていきたいと考えている。東京オリンピック

があるため、資材高騰だとか人工（人件費）の高騰で 300 億円、350 億円になったらどうするんだという御指摘もいただいている。しかし、行政と病院が健全な経営をしていくためには、出せるお金には限度がある。今回審査に携わっている先生方や専門家が入っていただいている先生方は、全国の公共病院を、できるだけ安いコストで仕上げていくような専門家の先生、設計の技師の先生等も入っている。こうした先生方の御意見を踏まえながら、できるだけコストを抑えながらやっていきたい。

・国の方も例の国立競技場があまりにも高い設計費で一度ダメになった。あれからゼネコンの方も、全国的にも青天井のような建設費の高騰はないのではないかというような話が出ている。オリンピックを過ぎてからというよりも、その前に落ち着くのではないかというようなお話もあるので、堅実な設計をしながらやっていく。平成 32 年を目途にしているのは、全部に合併特例債が使えるわけではないが、一部分にでもこの合併特例債が使えるなら、10 億円、20 億円というお金が国から交付税措置されるということであれば、それも大きな金額である。そうした意味では、平成 32 年に間に合わせたいという思いがある。

・新たな病院をつくるにあたっては、市民に皆様からは、駐車場の問題、今でも月曜日の朝や平日の朝も大変渋滞している道路の右折レーンの問題、いろいろ御意見をいただいている。駐車場の問題は、立体駐車場ということについても、視野に入れている。立体駐車場を市が直営でやるのか、業者が造って業者が運営するののかというようにいうこともある。高齢者の皆様からは、立体駐車場では不安だ。平地じゃないと止めにくいというようなお声もいただいている。新病院の設計の中で、平地に何台確保できるのか、どの部分を立体駐車場にするのかというようなことを設計の段階で決めていきたいと思っている。

・新しい病院が建設される間は、職員駐車場を中央公園の方にもって行って、国一バイパスの下の占用許可等もお借りして周辺の駐車場と立体駐車場の考え方も含めて、現在の駐車台数は確保していきたいと思っている。今もずっと止めている車があったり、いろいろな御指摘もいただいているので、そういった車も排除しながらやっていく。それから、新たな病院はゲートを付けて、診察にくるお客さんからはお金を取らないかもしれないが、お見舞いに来る方々からは、ほかの病院と同じように、多少の駐車料金を取るかもしれない。そういったことも検討している。右折レーンのことは、あの県道のどの位置に右折レーンを付けるのかということ、これから設計段階で考えていく。というのは、病院の正門が今の道路から入った場所が正門になるのか、一本北側の方から入るようになるのか、設計によって変わってくるので、それに合わせて右折レーンを整備していきたいと思っている。こういったことは、島田が勝手にできることではないので、警察や県ともお話をしながら、右折レーンの設置等も新しい病院においてはきちっとやっていきたいと思っている。

#### これからの地域づくりについて

・元島田の世帯数は昨年 12 月 31 日現在で 1,123 世帯、人口が 3,069 人、65 歳の高齢者が 915 人、高齢化率は 29.8%、これは島田市の平均と同じ。子どもは 381 人で、人口に占める割合は、12.4%、これは島田市内全域では 13.8%なので、子どもの数は少し少ないというような状況となっている。元島田と地名が付くくらい、昔は、島田市元島田何番という島田市何番で島田の町名が決まっていたくらいの元からの土地である。ここで様々な活動をされる方たち、有識者の方たちも多く住んでいる所なので、これから地域の課題、あるいはそれをどう解決していくかということについて、市民の皆様からのお声を

いただきたいと思っている。例えば、湯日小学校という小さな小学校は複式学級になっているが、昔は放課後児童クラブなんかはいらなかった。しかし今は放課後児童クラブに通うお子さんがいる。一番近い初倉南小学校まで5km。湯日小学校の全校児童数は30人くらいの学校なので、そこに放課後児童クラブは作れないという中で、どうやって南小まで子供たちを毎日運んだらいいんだろう。行政は一時はタクシーを使うことも考えた。地元で相談したところ、地元の方々はローテーションを組んで、迎えに行くのは親だから、送っていくことは一日一回だけだから自分たちで何とかすると言って、自分の車で子供たちを送ってくださっている。それに対して行政は、ガソリン代と車代をお借りするという意味も込めて、お礼のお金をお支払いしている。ここは放課後児童クラブも作れないが、働く親が増えて放課後児童クラブも欲しいという中で、地域の西部ふれあいセンターという公民館を使って、地元の人たちが自分たちで放課後の子供たちを見る。毎日ではなくて週3回くらい見ている。そんな活動もしている。金谷の別の地域では、地域の高齢者を病院まで送っていくために、何か手立てがないかということを考え始めたところもある。お金を取ると白タクになってしまうのでできない。地元の方々が、もしボランティアでそういう高齢者を病院まで運ぶということになれば、行政が車を買って、保険を付けて、場合によってはガソリン代を出すこともできる。そういう地域の課題を一緒になって解決するために、どういう手立てがあるのかということ、地域の皆様も一緒に考える。そういうまちづくりをしていきたいと思っている。場所によっては、高齢者に見守りを兼ねて週一回でもお弁当を届けるような活動をしたいということも出てきている。

#### 蓬萊橋の周辺整備について

・蓬萊橋周辺も多くの観光客が来るが、何も建てられない状況であったが（番小屋も水防の管理小屋という位置づけとなっている。）、国土交通省の許認可も少し緩やかになって、協議会を1年作って検討した結果、「川まちづくり支援制度」、国土交通省の事業の一環として、許可をいただいて、蓬萊橋のところにお休み処整備事業（お茶をお出ししたり、お土産物を買ったりすることができる施設）造れそうだということで、今年まちづくり推進協議会を作って、できれば年度内（28年度）に着工したい。

#### 産業支援センターの整備について

・街中に産業支援センターを、街中の島田信用金庫の近くに整備する。地場の中小企業の支援ということで、創業支援、起業支援もそうだが、様々な補助金や専門家の指導を受けられるような場所をつくっていきたい。民間からセンター長を置いて、島田市、島田信用金庫、商工会議所、商工会の4者の連携の中で、それぞれが職員を出して、そこで島田市内の企業の皆様の支援をしていく。内職等をやりたいという方、若い人はテレワークといって、パソコンの入力のアルバイトといった仕事も増えてきているので、そんなこともゆくゆくは御紹介できるようにしていきたい。もちろん島田市内で新しく店舗を構えたい、今の仕事だけでは十分ではないので、副業をやりたい、そういったお話も相談いただけるような場所を4月の中旬にはオープンできるようにと思っている。

### 川根温泉のメタンガスの活用について

・川根温泉ではメタンガスが噴出する。温泉が湧くときに一緒になってメタンガスも空中に噴出しているが、このメタンガスの採掘権を国に申請をしている。これまで鉱業法という法律の中で、阿蘇山の地熱発電のような大規模なものしか認められていなかったが、小規模なガスの採掘権も認められるという法律の改正があって、今、関東経済産業局が採掘権の公募をしている。そこに島田市が手を挙げている。ほかに手を挙げないと思っているので、5月には公募を締め切って、8月には決定をし、10月頃からは川根温泉にメタンガスによる発電設備ができる。この発電設備によって、川根温泉ホテルの年間の電力使用量の3分の2を発電で賄えると試算している。1億8千万円ほど投資するが、5年くらいで元が取れるという計算をしている。これが目玉なのは、全国で初めてというところで、温泉を有している自治体がメタンガスを使って発電事業に乗り出すかもしれないという可能性を持っている。

### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■町内会の意見として、 市民病院のアクセス道路について、市民病院の来院者が元島田地区の南北の道路を利用して自家用車、自転車、徒歩等で利用している。県道は右折レーンがないため慢性的な渋滞が発生している。このため、この渋滞を避けるため、元島田地区内を走る南北の交互通行も困難な道路を利用して、無理に通行しているのが現状である。このような状況の中、元島田住民である四小児童、二中学生が通学をしていると共に、住民は生活をしている。住民の中には、道路上または交差点における交通事故を大変危惧しており、市長がいう、「安心・安全」なまちという点からも、今回の新病院建設において、この点についても何らかできるのではないかと思いい意見を言わせていただいている。市民病院は、災害拠点病院でもあり、災害時の交通量は測り知れないものがあると考えている。もし電柱1本が倒れたらどうしますか。大型車が通行できなくなった場合、他に通行できる道路があるのか。病院へも入っていけない。また、中央公園は自衛隊とか警察の災害活動拠点となり、ヘリポートの利用、緊急非常物資の搬送にも利用されるものと防災計画の方ではうたっている。現状の道路だけでいいのかと考えている。市民病院の基本計画も進み、病院の全体像が見えてきた気がする。しかしそんな計画の中、周辺の道路、河川の計画がはっきり見えて</p>	<p>●病院の建設と同時に、県道の右折レーンだとか、元島田に入る、はなみずき通りから入るところの交差点の右折レーン、こういったところは、新病院とあわせて改良する計画がある。しかし、それ以外の新たな道をつくるという計画は、今現実にはない。(病院の)中を付け替えることはある。道路を新たにつくるという計画は今のところない。六合などでも、人がどんどん増えているのに、道路が狭くて建ぺい率も上げられない。消防自動車も入ってこれない。こんな道路のままでは、といつも言われる。現実には景気のいい時代に、道路を広げたいよという話を(行政は)ずっとしている。ただ、その時は、減歩といって、自分の土地の何%かを出さないと道路は広くならない。その減歩のために、自分のところの土地が狭くなってしまっているので、やっぱりヤダよと反対する方々が多く、そういう時代的な流れの中で、その当時はできなかった。今は、その当時の方が亡くなって道路を広げてくれて言うんだけれども、今度は家が密集してしまっていて、それを立ち退いてもらって、面として整備をしていくような時代ではなくなってしまった。本当に時代が、その当時と20数年しか経っていない。しかし、すごく変わってきていて、今は面的な整備というよりは、基幹道路、線的な整備をする中で交通量を確保していきたいと思っているところ。実際に病院に行く人たちも、慣れた人たちは、こっち(県道)を通らずに、大津谷川沿い通ったり、生活道路の中にまで入ってきて、危ないということは私も十分に承知をしている。そういう課題を、時間によって通行制限することもできるんだろうけれども、そうすると、地場のそこに住んでいる人たちが入って来れなくなってしまうという弊害もある。例えば、大津谷川の右岸と左岸を、</p>



	<p>きていない。どのような計画があるのかを聞きたい。元島田住民のために、何らかの計画をしていただきたい。元島田地内は交通の便が良いこともあって、土地の人气が非常にある。私が生まれて65年になるが、その間、不動産業者の乱開発が見られ、道路についても全く整備されていないのが現状である。このようなことから、アクセス道路として、昔から言われているアクセス道路についてその概要を説明する。市民病院の南の「そばの花」店の東側の道路の拡張工事も頓挫してしまい、この道路の中間地点に非常に狭くて、交互通行できないような道路になっている。旧国道一号線経由、はなみずき通りからアスク長谷川さんという自転車屋さんがあるところであるが、公会堂の東側にある道路であるが、これも計画が頓挫して行き止まりになっている。あと、元島田公園から南北に向かう道路も計画が頓挫して行き止まりになっている。このように計画はできている割に元島田の土地が乱開発された、昔の行政の怠慢の付けがきているのではないかと考えている。このようなことは、元島田住民が皆考えていることなので、市民病院の建設にあたり、すぐには言わない、計画の中であくまで計画だけでも作っていただいて、市民病院の建設後すぐにはできない、先ほど言われたようにお金がないこともわかっているが、計画だけは作っていただきたい。できればやってもらいたい。先ほど言った3点の1点、元島田の東側にある道路が非常に簡単というとおかしいが、今の道路を北に向かっていると、たったの一軒建物がある。その建物に協力をしていただければ、その後は、田んぼになって、ラーメン屋さんのところへすぐ通じてしまう。その間、200mくらい。建物はほんの30mくらい。その方が協力していただければ道路は可能だと思う。その当時の土地の所有者は30年経って正直言って亡くなっている。なので世の中というのは、30年、40年経てば、その状況も変わってくると思う。地元の人もしかしたら協力してくれるんじゃないかと思っているので、そのへんをお聞きしたい。</p>	<p>片方は道路をつくるけれども、片方は人が歩けるようにするとか、色々な工夫をしながらやってくしかないのかなと思っていて、今後新たな都市計画上の道路をつくる計画があるときには、こういう要望があったということを都市基盤部の方に伝えてお出し、これからの課題にさせていただきたい。病院にアクセスする道路として。ただ、今時点でその計画をもっているかと言われると、都市計画道路の線引きもされていないというのが現状。アクセスをどの道から入ってくるかということと、地元の交通安全と地域住民の方々にとって、朝の時間帯によその車が入ってくるということは大変困る問題があるわけなので、警察とも少し話をさせてもらいたいと思っている。課題としてはしっかりと受け止めた。</p>
2-1	<p>■御飯屋の踏切について、救急車がかなり通るが、電車が多いときには20分くらい（遮断機が下りて）車が止まる。高齢者など命の大切な人があそこで20分も待たされたら終わりだ。そういうことを考えると、あそこを高架にするか、アンダーにする</p>	<p>●高架にすることは、現実には大変厳しい。JRがなかなか認めてくれない。高架にするといっても、急こう配の坂にするわけにはいかないの、ずっとのりしろをとって、旭町のガソリンスタンド付近から上がっていかないとダメで、降りるところは旧国1を過ぎたあたりになってしまうかもしれない</p>

	か、病院ができる前に考えて救急車が通れるようにしてもらいたい。六合の南から来るのと、初倉、横井から来るの。あとは大井川町（現焼津市）、吉田町、あっちからも来る。午後だけでも4～5回くらい（救急車が）通る。多い時には30分に1回くらい通る時もあるので、あそこをいい方にもってほしい。	らの幅を取らないとできないということと、JRに関することについては、JRが業者の指定から何から何まで我々が決められない。駅舎をつくるのも同じ。お金は全部市が出すのに、それでもJRが業者の指定やらを決める。
2-2	■それができない場合には、本通の新町通りのアンダーにつながる方法を考えるとか。救急車がずっと行けるように考えてもらいたい。コストのかからない方法で。	●消防署の方でもそれはわかっている、（電車の往来が多い時間帯は）そっちを回っていると思う。もう一つは、救急車を六合地域から寄せるために、東光寺のインターは片側のインターで、本当は西には入れない。しかし、今、東に入って救急車両だけ方向転換できる場所をつくってある。国土交通省にお願いしてつくった。救急車両だけは一度東側に入るがすぐ回転して西向きに、市民病院に降りられるようになっている。六合地域の方たちは、真っ直ぐ国1バイパスを通過して野田のインターで降りて病院に行けるようになっている。去年からできるようになっている。
2-3	■東光寺インターのところなんかでUターンしない。事故だらけのところ。どう考えたってはなみずきを通ったほうが早い。	●地元の大変強い要望で国土交通省にお願いして実現している。
3	■タイヨーの北側に増本自動車があるが、その交差点に点滅信号がある。その交差点に交通標識ができて、道をすごく狭くしてしまった。なぜあんなに狭くしたのか、南側のほうを。線を引いてしまって急に細くなるので、車が歩行者の方にぶつかってくるような感じがして怖い。	●市が道路のことを（今おっしゃったようなことを）勝手にできない。警察がやったと思う。生活安心課を通して警察に話をする。なぜそういうふうになったのかを聞いてみる。
4	■市長から先ほど元島田は3人に1人が高齢者という話があった。元島田町内会は、松下会長を中心に、夏祭りなどいろいろな事業を実施しているが、地域の皆さんが協力してくださっているおかげで活力ある町内運営がなされている。市民病院へのアクセス道路が朝8時頃は大変混雑する。そこで大津谷川の土手敷を拡幅して（幅員）5m以上の2車線を確保すれば、できるだけ町内へ車を入れないようにすれば、（渋滞も）解消するのではないか。	●大津谷川は県の管理の河川であるが、県では拡幅する計画はない。地元の要望としては（県に）伝えるが、今は難しいとしかお答えできない。
5	■元島田公園は町内の中心部にあって、防災面、夏祭り等のイベント等に役立っている。ゲートボールの練習場、グラウンドゴルフの練習場に活用されている。東側のDr. Sai デンタルクリニックとの間が側溝となっている。是非そこを埋め立て暗渠にしてほしい。そうすれば、グラウンドゴルフの練習場等も広げられる。そこに花の会の苗場もあるので、花の会の協力をいただいて四季折々の花を楽しめるのではないか。また、近隣の町	●なごみの里の事務の体制は、以前お一人が辞める際にも、最大の配慮ということで、皆さんの事務手続き等をお手伝いできる人を派遣するというので安心していただきたい。 ●大津谷川の2車線をという話は、県にはそういう状況にないという話をしたが、県では道路につける予算がどんどん減っている。平成12年頃には、35の市町に道路をつくるための補助金で165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、この2、3年45～46億円くらい、7割カットとなっている。国も平成

内からもグラウンドゴルフ場を利用したいとの話もあるので多くの人が活用できる場となるのではないか。

■老人クラブについて、島田市には64クラブ、3,000人が入会して活動をしている。昨年の4月から、介護保険制度が改正されて、要支援の1、2、すなわち日常生活の支援は、地域と住民が助け合っていく制度。その担い手として老人クラブの役割が重要となってきた。しかし、どこの老人クラブも会長をはじめ役員のみならず手がなく疲弊している。この3月で何人かが定年を迎え退職する。そして福祉関連の事業所に勤める。しかしそこを卒業すると家に入り、地域のために働いてくれない。老人クラブの支援について、老人クラブの担当課である長寿介護課をはじめ関係部課に御指導をお願いします。今、75歳以上の高齢者が年間支払っている医療費は約100億円余。みんなが老人クラブに入って、輪投げやグラウンドゴルフなどに興じて元気になってくれれば、1%の1億円くらいの削減はできるのではないか。高齢者の持っている力をどう活かしていくか大きな課題で、川柳ではないが「ボランティアするもされるも高齢者」。今、高齢者の心のよりどころである老人クラブの事務所を「なごみの里」でやっているが、この陣容（長寿介護課から派遣されている2人の体制）を継続してもらいたい。

12年頃には、全国の1,700を超える自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26年度も27年度も当初予算についているお金は5兆円から5.3兆円となっている。市でも新しい道路をつくりたい。例えば、本通旭町線の歩道をきちっとしたいとずっと要望をしているが、社会資本整備総合交付金という補助金のつき（配分）が悪くて、継続している事業を優先しなければならず、2、3年待ってもらって事業化していくというのが現状。したがって、県の土木事務所に、大津谷川の川の中にある浚渫土砂を何とかしてほしいといつも言っている。大水が出た時に、あふれる、洪水のもとになるので浚渫はきちんとやってほしいと。ところが、志太の3市で浚渫の予算が600万円しかないと言われると、本当にできない。本当に困っているところからやっている状況ですという話の中で、県もこうした護岸の道路を幹線道路でない限り2車線にするということはなかなか難しいと考えているようだ。

●老人クラブについては、新たな方が入りにくいのは、私が言わないからとかではなくて、昔は老人クラブに入るのが、そこがお楽しみだったと思う。ところが、今、やることはいっぱいある。クラブもたくさんあるし、80になってもお茶（茶業）の現役だったりして、老人クラブに入っている暇がないという方たちも増えてきている。80になってそろそろかなとおっしゃるような市内全域の皆さんの考え方が、そういう風潮があるなら、できるだけ老人クラブを育てていきたいし守っていきたい。なぜならば、老人クラブは「自立して自分たちのことをやり、かつ社会に奉仕しよう」とするクラブだから。他に生きがいクラブだとかゆうゆうクラブだとかいろいろなクラブがあるが、そこに来た高齢者はお世話される側であるが、老人クラブは自主独立、自分たちで奉仕作業をしようという団体である。高齢者の方たちがいつまでも元気で地域に貢献できるそんな社会になっていかななくてはならないし、これからは若い人たち、女性は今まで日本の社会である意味埋もれていた資源として仕事をどんどんするようになり、元気な高齢の方たちは、仕事を続けるなり、社会に様々な形で地域の奉仕等するようになると思う。それでもなお足りない時に、専門家として外国人が入ってくる可能性もあると思っている。順番としてはまず、女性の活躍と高齢者の活躍だろうと思っているので、老人クラブをこれからも支えていただきたい。退職する人にはできるだけ老人クラブに入るように私から言っておきたい。

●今、「新総合事業」という、全国に先立って昨年度から島田市が始めた。これは、介護認定を受けるのにはこれまで2週間から1か月くらいかかっていたものを、わずか20分で、アンケートに答えていただくだけで、それをチェックし

		<p>て皆様に必要な支援を、その日から受けてもらえるような制度も導入した。これによって、「元気アップ教室」だとか「居場所づくり事業」、「シニアトレーニングルーム」だとか、さまざまのところに行って、少し弱ってきた方たちが、自分で自分のことができるようになったり、介護認定にいかずに、一つ軽い認定に戻ったというようなことが現実として大変効果が出てきている。こうしたことを続けながら、「健康長寿のまちづくり」というものをしっかりやっていく。</p> <p>・この要支援1、2の方の支援については、一人暮らしの高齢者で、登録されている方が500人くらいいるが、毎週市役所はこの方たちに一人ひとりに電話をして、安否確認と困ったことや心配事はないかということを確認している。もし、連絡がつかないとき、SOSがあったときには20分以内にその人のところに行く体制を整えている。トイレから出られなくなっていたり、足をくじいたとか動けなくなったということも実際にはある。500人に毎週電話をすることは大変なことで、しかも通じるまでかけるわけなので、そういうことも長寿介護課としては、きめ細かな事業している。今年の夏、熱中症になる方が多く、エアコンを使って高齢者が熱中症にならないようにと保健指導において見守りをするように指示をした。実際は、冷房ではなくて暖房にスイッチが入っていたりとか、設定温度が32度だったり、エアコン入れようと思ったらテレビがついたなど、行政だけでは地域の高齢者の生活を十分に見守ることはできないということを実感としてあった。地域の中で、隣近所で困っている方がいらっしゃる、一人暮らしの方がいらっしゃるという方に対して、周りの目が届くそういう地域社会を島田は目指していきたいと思っている。</p>
6-1	<p>■前のことで恐縮だが、元島田公園の公園の中に共同住宅とか病院が建設されている。この公園のために土地を譲った方もいる中で、違った方向に向いているという感じがしている。(公園は)災害等における避難場所、子どもの遊び場として、町民の憩いの場としては大変重要な場であると思う。この中に建物ができてしまっているのは、公園法からみて矛盾があるのではないか。できてしまった以上、やむを得ないとは思いますが、こういった前例によって、また施設ができるのではないかという危惧がある。公園という機能を十分持たせていただいて、公園法を守っていただきたい。前市長の頃の話とは思いますが、経緯等がわかれば説明をお願いしたい。</p>	<p>●蔡先生があそこに歯科医院を建てたいという話があったとき、公園の中になぜそれが建つのだということを知った。その前に、皆様から公園用地として土地を御提供いただいたときに、どうしても売らないという方がいらっしゃった。その方がそこに共同住宅を建てられた。そこから、それがなぜ許可になったのかということが私にはわからないところであった。その後、病院までできてしまっていて、その方が持っている土地が、建設会社が間に入って病院の誘致等が行われたというようなことを聞いた。本来、元島田公園を分断するような、ああいう公園用地の使い方というのは、ありえないと私は思う。少なくとも、私だったら許可は出さなかった。なぜなら公園の用途指定をかけているわけだから。しかし、現実に進んでしまっていて、しかも市の土地ではないところであったため、止めようがなかったというのが現実であった。ただ、(公園が)細分されてしまって東側に小さな場所が残ってしまったし、私としては遺憾に思うし苦しいところである。公園等は長い間、他の事業を優先してきた中で、維持管理やメンテナンスがなかなか進んでいない現状があった。市内の公園のフ</p>

		<p>エンスが壊れていたり、遊具が壊れていたりといったいろいろなことがおきている。これも一遍にはならない。十何年手をかけてこなかったところを、一遍にはよくはないが、順次、公園の整備もしていくことを方針として出しているし、今年も新たな公園を整備する予定となっている。</p>
6-2	<p>■経緯はわかるが、今後の計画はないということでよいか。 前例があるので、建築物を造るような話が出てくることを危惧する。</p>	<p>●今、元島田公園の土地は全て市の土地であるため、四阿とかは建てる可能性はあるかもしれないが、お店を出したりとか、病院をつくる、アパートをつくるといったことは、私は頭には全くない。ただ、中央公園のような大きな公園については、来てくださるお客様のために、例えばカフェがあってもいいと思うし、ちょっとした飲み物売る場所があってもいいと思う。大きな公園の中の営業権みたいなものはこれからの時代、そこにお店を出す権利を売ることによって、市もいくらかのお金が、公園の維持管理にまわすことができるし、来たお客様にとっても飲み物が買えたりすることは便利なわけなので、双方がいいというような立場で、大きな公園に営業権を売ることにはあるかもしれないが、それはこれからの時代の公園のあり方だと思うので、蓮華寺にカフェができてきているのも同じ。しかし、元島田公園に民間の施設を許可することは全く考えていない。</p>
7-1	<p>■大津谷川の浚渫について、元島田から大井川用水の合流点の浚渫は終わっていた。ただし、下流に向かって左側（左岸側）の合流点のところ、まだ土砂が全部残っている。あれが大津谷川なのか、大井川用水のものなのか調べてもらって、合流点のところの土がどかしてなければ、上流部がきれいになっても何の意味もない。大井川用水のものであれば大井川用水に言って、その堆積土砂（約1mちょっとある。）が相当の面積が残っている。その排除をお願いしたい。県の方だったら県の方に中途半端なことはやめてもらって全てとってほしい。</p>	<p>●私は土木事務所と会うたびに、こういったお願い、要望活動をずっとしている。しかし、一遍にはよくなる。公園のフェンスでさえも3、4、5年もかけて、少しずつでないと直せないのが現実。浚渫も、私の要望を聞いてくださって、大津谷川の浚渫ができたのだと思う。しかし、全部を一遍にというのは、なかなかきれいにならない。次の年なり、次の予算が使える時まで、いきなりはできないけれどもというところを御理解いただければありがたいと思う。</p>
7-2	<p>■そでじゃあ浚渫の意味は何にもない。大井川用水に言ってほしい。管理しているところがとるなら。</p>	<p>●なかなか難しいところではあるが、大井川用水に言うておく。</p>
8	<p>■この南に伊太川という水路がある。幅は2～3mの大きな川ではない。この川は春から夏にかけて、稲作の時期は農業用水としてかなりの水量が流れている。稲刈りが終わった後は、次の田植えの時期まで水がほとんど流れていない。水が流れていない時の川は、悪臭やら、家庭から出た污水やら浄化槽から出てくる排水によって、付近では臭気が漂う。ごみ、落ち葉、流れてきたものが漂っている。この伊太川の（水）取り口は、旗指の伊太谷川沿いの康泰寺の近くにある水門によって管理さ</p>	<p>●農業用水として流しているんだろうと思う。なので稲作、田んぼを使う時期は流すけど、それ以外の時期は水門が閉まっていて流れない。これはほかの地域でも全く同じである。もし汚水が流れ出ているとすれば、お宅の合併処理浄化槽のメンテナンスが必要だということになる。取り替えなければいけない状況になっているということになるが、都市基盤部には話をしておく。農業用水のことも絡むので、今、私から土地改良区などの関連もある中で回答はできない。水利権はすごく細かく決まっていて、行政が勝手にできるものでもない。こうした中で、伊太谷川の水が水門を開けて1年中流することができるかどうか、</p>

	<p>れている。冬場でも伊太谷川の水量はあるが、水門の内側には水が流れていない。水利権とかの問題もあると思うが、私たち町民としては、生活用水としてこれまでどおり利用させていただきたい。行政の運営の範囲内で水利権とか何とかならないか。</p> <p>■冬場の火災の防火用水、それらが心配。冬場でも防火用水として多く流すようにしたと聞いているが、二中の裏で工事をやっているために水量が少ないと思っていた。</p>	<p>そここのところだけ聞いてお答えする。水が来ない理由も含めてお答えする。</p>
9-1	<p>■コミュニティバスについて、はなみずき通りの保健センターの方の西には行くが、タイヨーから東にはコミュニティバスが全然通らないのは何か理由があるのか。</p>	<p>●はなみずき通りを通るバスが全くないわけではない。「島田駅東線」というバスがある。コミュニティバスは4月から路線の改変をする。全て島田駅を発着にして、川根温泉にも乗り換えなしで行けるような路線を設定している。島田駅からタイヨーの交差点を東に行って御飯屋を通過して駅南に着く、そういった路線がある。</p>
9-2	<p>■タイヨーの近くにバス停はあるのか。</p>	<p>●公園のところにバス停はある。新しいバスマップは今月の広報しまだにあわせて各家庭に配布するので、保存版にして見ていただきたい。</p>
10	<p>■島田市も人口が減少しているが、その対策と、若いお父さんやお母さん、子育て世代の方々が2人、3人と育てていけるような支援策、延長保育みたいなものの充実だとかがあったら説明してほしい。</p>	<p>●島田市の人口は現実的に、徐々に徐々に減ってきている。日本全体が減っていく中で、少しでも増えているところがわずかという中で、人口減少は、これから30年から40年間は減っていくのではないかとされている。人口が減っている時代のあり方については、一番最初にお話しした、これまでとは違う価値観の行政が必要になってくるということ。2人、3人育てていける支援策ということで、島田市は子育て支援も教育も県内トップクラスの支援策をしている。それでも、結婚している方は、平均2人以上のお子さんをもっている。しかし、結婚しない人も増えてきていて、生涯未婚率といって、一生に一度も結婚しない方が、男性では15%を超えている。女性も結婚しない方が増えてきている。このため、全体で子供を2人以上産むためには、産める人は3人以上産まないといけないような現実がある。もう一つは日本全体で考えなければいけないことだと思うが、今、初婚の年齢が、女性が29歳、男性で30歳となっている。30になってから子供を産むのでは、3人はなかなか産めない。女性は大体40歳くらいになるまでが子供を産む適齢期。日本全体が、大学を出たらキャリアを積んで一人前になることが優先で、10年間は働く、女性も働くというような風潮の中で、なかなか結婚もできない、子どもを産む選択もできないという社会のあり方を日本全体で変えていかないと、20代で一人目は産める、そういう日本にならないと、子どもが2人、3人と増えていくということは、行政がやっている様々な子育て支援や夜遅くまで預かる支援や放課後児童クラブであったり、働いているお母さんへの支援というのは、増えても焼け石に水になってし</p>

まうのではないかと思っている。放課後児童クラブは、昨年から6年生までみるように指示をしている。時間も学校の中の教室を使うときには、なかなか難しいが、管理で分けられるところは、6時30分までみている。昨年の4月には待機児童は島田市全体で4人しかいなかったが、今年、希望を聞いたら、125人ということになっている。このため、低学年を中心にして、高学年には少し待っていただく措置をする中、これまでのように校庭の隅に放課後児童クラブをつくったり、学校をお願いして何とかというのでは、もう間に合わない、できないということが分かったので、私としては来年もっと増える可能性も出てくる中で、学校に強力な市長権限で市内の教育施設は放課後児童クラブにも使うよという通達を教育委員会と校長側に出した。これまでは校長先生たちは、学校の管理、放課後児童クラブの方が使うと、もしものことがあったとき、どこが管理責任を負うのかという問題があって、それから学校の先生たちは、5時には帰っていいわけなので、それ以降、そのために残ることは難しいといったいろいろな学校側の事情もある。だが、放課後児童クラブをやっているエリアについては、行政が管理責任を負うということで、今、放課後児童クラブを大きく増やしていきたいと思っている。四小にも新たに場所を増やさなければならぬ。初倉と六合は待ったなしの状況。市内も一小、二小、四小、金小、このあたりは4月にも間に合うように急いで工事をしなければというようなことを考えている。

●働くお母さんが増えた。これは共働きでないとなかなか生活が豊かにならないという社会現象もあると思う。また一方で、これまでは4人か6人のお子さんに1人のお子さんしか放課後児童クラブに来なかったが、今は4人に1人以上の確率で子供たちが放課後児童クラブに来ている。だんだん増えてくると、家にいても友達がいないし、放課後児童クラブに行けばみんながいるからという話になる。お母さんたちも預けたほうが楽ということになってくると、学校が夕方6時30分まで預からなければならぬというような流れも出てくる。わが子をどう育てるかという「親力」も試されていると思うし、子どもはある程度大きくなったら、自分で留守番することや、危ないことを自分で避ける力も必要だと思う。中学に行っていきなり学校が終わったら自由にしていよいよと言われてもきっと子どもたちも大変だろうと思う。放課後児童クラブや地域で子供を遊ばせる、そのあり方がどうあればいいのかということもこれから考えてもらいたい。湯日のように地域の力で公民館を使って子どもを預かっていただくということであれば、その維持管理やかかる費用を、もちろん全部行政が負担する。子育て応援課というところが所管となっているので、そういった地域の力を借りながら、子どもたちを安全にいられる場所をつくっていききたいと思

		<p>っている。</p> <p>●保育園も待機児童が出ている。今までは一ケタだったのが、30人くらいになってきて、恐ろしいなと思ったのは、昨年10月に私立の幼稚園の1カ月かけた応募を締め切った。前年度に比べて200人も応募者が減った。子どもはそんなに減っていない。それはすべて保育園にシフトしている。今年新たに向谷の方に市有地を使って民間の保育園さんに出させていただいて、0～2歳児未満を預かる定員60人から90人くらいの新しい保育所をつくろうと思っているが、それも焼け石に水くらいになる可能性がある。もしかしたら赤ちゃんを預けるための待機児童園みたいなものまで行政が造らなければならないような事態になってきている。ただ、10年先を見るとその需要は減ってくる予測がある。民間も先のことを考えると大きな投資はできない。どこかで民間が生きられるように、そのりしを縮められるような役割は公共にあると思っているので、公共が公の施設がそのクッションになれるように、需要が伸びるとき縮むときを調整しながらやっていかなければならないと思っている。島田も育休退園といって、2歳までの赤ちゃんがいるお母さんが、次の赤ちゃんを妊娠した場合には、これまでは一度保育園をやめていただいて、お母さんがお家にいる、産休、育休の間、お家でみていただいて、2人そろってまた新たに保育園に入るということをやっていた。島田の場合、また新たに入る時に入れなかったということではなかった。しかし、埼玉の所沢での待機児童が出て裁判沙汰になった問題もある。やっぱり育休退園があるということで、お母さんたちが島田に住むことをやめようと思ったのでは困る。やはりお母さんたちに選ばれる街をつくっていくために、育休退園はやめなくてはいけないということでやめている。そうするとまた、待機児童が増えるということになるので、保育園の対策、放課後児童クラブの対策は大きな課題になってきている。急激に増えている需要というものを御理解いただければありがたいと思う。</p>
11-1	<p>■サルについて、附属中学の北側のところにサルが出て、役所の職員も見に来ていたが、そこで終わらないで、サルが出たのであれば、公示期間（1か月～2か月）を決めて、ここでサルが出ましたというものをその近くに掲示するという、そこまでのことをやることによって通行人にも注意を促す効果もあるのでお願いをしたい。</p> <p>■イノシシの問題について、附属中学の裏の山に出てくる。イノシシの対策として電気柵の設置に対する補助金を出しているが、対策の仕方として、根っこは絶たないで来るものに対して受け身となっている。そういう政策を考えるとときに、根っこを</p>	<p>●ここにサルが出ましたという表示がしてもらえたらという話については、金谷も川根も初倉でもサルが出て、ベランダで日向ぼっこしていたとか、部屋に入って食べ物を取っていったとかということもあるが、サルはすごく大きく移動するため、写真まで撮って行政に届けてくれる方もいるが、なかなか捕獲が難しいということもある。そのうちにいなくなったり、あるいは捕獲に成功したというような時もある。ここにサルが出ましたというような表示ができるかということをやるとしたら農林課になるので話をしてみる。</p> <p>●イノシシの件については、電気柵を御自宅でも設置する方があるので、以前は設置の補助額を2万円としていたが、5万円に上げている。御自宅で電気柵を設置する方は市へ申請をしていただければ5万円の補助金が出る。イノシシ</p>



絶つためには、イノシシを捕って駆除してくれる方に、もう少し補助金を出すとか、もとを絶つ政策をしてほしい。イノシシを片づけるのに半日かかったという話も聞いた。イノシシの被害も畑等で多く出ているので、もう少し捕ってくれる方に日当を払うとか、もとを絶つ政策を検討していただきたい。

■通学路の問題で、附属中学の北側の川の横の通学路について、大きな楠があって、その落ち葉が通学路に落ちて雨が降った時に、子どもが滑って転ぶ。市の方から協力願って、落ち葉が落ちないようにやってもらえば危険性はなくなるのではないかと。前に子供さんが転んだので剪定をしたということを知ったことがある。その通学路にススキが生えていて見通しが悪い。

を駆除してくださる方には、1頭あたり17,000円のお金を払っている。猟期は別。11月～2月までは猟期となっている。この間は狩猟する方々がいる。それ以外の季節に猟友会の方たち等に駆除していただくときには、1頭当たり17,000円を払っているが、イノシシは住民票をもっていない。藤枝から島田にも来るし、島田から菊川にも行くし、たまたま島田で捕まったから島田がお金を出す。もっと県が抜本的な対策を取るべきだと思うので県にもこの話はしている。島田市は中山間地域が7割を占めているのでイノシシはいる。これを抜本的に絶つというのは現実的には難しい。ものすごく増えている。家庭菜園をつくる人も根負けしてしまって、イノシシに負けて、どうせ作ってもイノシシに食べられちゃうと言って作らなくなってしまうくらいに、イノシシが出ていたり、公園にイノシシが来て穴を掘るため、子どもが転んで危ないという声もいただいている。広域でイノシシの肉を加工できないかという話も出てきている。ただ、イノシシは11月から2月までの猟期に獲れたものしか食料にできないし、人間の年齢でいえば20歳くらいの若いイノシシでないと食肉にならないそうだ。寄生虫があってもダメ、銃で殺されたものもダメ。畏でかけられて、しかも亡くなってから3時間以内に加工場に入るようなそういう設備がないとダメ。要するに獲れたイノシシの10分の1しか食肉にはならないという中で、単独でこのジビエの加工場を持つということは、年間4カ月しか動かないものに対して厳しい状況がある。これについては、農協を含めて地域で実際に話し合うという会議を今予定しているところ。

●街路樹については、市有地に生えている街路樹であるならば、(学校の中との住民の声) 附属中学の中なのでなかなか難しい。実は市民の皆様から、この落ち葉のことについては、ものすごくたくさんの苦情が来る。葉っぱが落ちて雨どいが詰まる。滑って転んだらどうする。落ち葉掃きが大変だ。まだ葉っぱが青いうちからたくさんのお電話をいただく。その結果どうなるかという、例えば駅南の横井の通りを通ってみてほしい。街路樹が鉛筆みたいになっている。枝もみんな取り払われて、一本の鉛筆になって、てっぺんもちょん切られている。私はそれを見るたびに胸が苦しくなる。だったら何のために街路樹を植えているのかと思う。いらないのだったらいらないようにすればいい。もし街路樹を植えて緑化をして夏の日陰をつくりたいということであれば、この街路樹がどうあるべきかを地元で話し合うべきだと思う。街路樹を剪定するお金がいいのか、葉っぱが落ちる10日間、シルバー人材センターなどを使って落ち葉を掃くような、そういう事業がいいのか。例えば名古屋に行くと、銀杏の木がものすごく葉っぱを落として道中にカサカサカサカサ風が吹けば飛ばし、でも誰もそれに対して何も言わない。そこに住む人たちの住民の気持ち、感情なんだ

		<p>と思う。確かにそこに住んでいる人は、雨どいが詰まったり、滑って転んだり、落ち葉掃きが大変だったり、確かにそのお気持ちはよくわかる。街路樹が鉛筆みたいになってしまっている様子を見た時に、私は本当に胸が痛くなる。街路樹のあり方というものを、我々は一度話し合う必要があるのかなと思っている。いらぬのだったら根本から切って、低木の木を植えればいい。しかし、街路樹をこれからも置きたいというのであれば、みんなでそれを守っていくことも考えなくてはいけない、それが市民力だと私は思う。市内の街路樹はほとんどが住民の方からの電話で対応している。敷地の中なので皆様からのお話があったら市が勝手に切るわけにはいかない。</p>
11-2	<p>■子どもが落ち葉によって危ないということをお願いだけで、附属中学の校長先生がどう考えるかわからないが、行政の皆さんにも知っておいていただきたくて言っている。</p> <p>■イノシシの件は、1頭17,000円ということであれば、出来高になってしまう。しかし、それを捕るということはすごい手間がかかっている。だから下に下駄を履かせて、出来高でやっちゃと（捕る人も）捕れなくなってしまうと思う。</p> <p>■中部農業共済がある。あそこは結構金を持っているので、農業の被害調査は農業共済が持っている。農共はお金を持っているので大丈夫。</p>	<p>●また検討してみたいと思うが、これには国の補助金等も出ている。国の補助金が1頭当たりいくらの補助金になっている。それに上乗せをして行政も払っている。今日、山に入るからといって、何時何分に山に入って、一日山にいたとか、全然管理ができない。なかなか猟友会も高齢化していて難しい中で、出来高払いになってしまっているのも制度上はやむを得ないところが今ある。そこを、山に入っただけで、捕れなくても日当払いますよという制度改正をするには、そういう声を県や国に上げながら、まさに農業共済にも声をあげながら伝えていかなければならないと思う。</p>
12	<p>■蓬萊橋の橋脚について、コンクリートだと思うが、せめて陸にある橋脚だけは木でやったらどうかなと思う。コンクリートでなければならない理由はあるのか。</p>	<p>●蓬萊橋は島田市道ではなくて、農林水産省が管理する農道になっており、被災しても国が修理している。橋脚ができるだけ流されないようにという中で、本当に近いところは木で囲ってあり、川の中の橋脚はコンクリート製になっている。</p>
13	<p>■市民病院の待合の関係だが、回転式のドアの右側の方に出入り口があって、予約券を持った患者さんが風除室を待合にしているようで、長椅子が2つほど置いてあって、早くから来て待っていて、多い時には、椅子に座れなくて立って待っている。中に入れぬ人は外で待っている状況となっている。夏はいいが冬は寒いということで、高齢者とか循環器系の疾患を持った方などは、寒さによって影響が出るので、通路に影響が出ない程度に椅子か何かを置くような対処をしていただければありがたい。</p> <p>■新病院では、予約券を持っている人が朝早く来て待っている部屋はあるのか。</p>	<p>●新病院のことはまだ設計の段階なので何とも言えない。病院は10時の予約でも、朝連れてきてくれる子供さんやお孫さんの都合で早朝から来る方がいる。通勤の時間にあわせて連れてきてもらって、おいてもらって、昼はコミバスで帰るといような方たちなので、診察の時間に関係なく早朝からお見えになる方がいらっしゃる。本当は予約の時間に来ていただければ一番いいわけけれども、色々な足の都合やら、誰かが乗せてきてくれるよといえば、乗ってきた方がいいものだから、どうしてもそういうことになる。ではそこに椅子を置けばたくさんの方が座れるようになるということになると、座れるところならもっと（椅子を）置いてほしいとかいろいろ話が出てくる。体を壊すようなことがあってはならないので、病院の方も配慮すると思うが、風除室の待合になっているところにこれからもどんどん椅子をとというのは、病院には伝えるが、考え方として、いろいろな事情がある中で、皆さんが早くに来てしまうというそ</p>

		<p>ういう現状もあるということで冬場などは大変なのでできるだけ早くに待合室に入れるように伝えておく。</p>
14	<p>■役所の職員にお礼を言いたいのは、元島田の道路の舗装が傷んでいてボコボコなところが結構ある。道路の穴ぼこをまめに役所の担当部署の方が来てきれいに埋めてくれている。穴ぼこが開いていて言おうかなと思うと、大体埋めてくれている、よく回っていてくれている。担当の皆さんにはよくやってもらっているからお礼をこの場で申し上げる。</p>	<p>●土木管理課の職員が本当に喜ぶと思う。いつもいつも御批判やら苦情やらお叱りの言葉ばかりたくさん職員はいただく。ありがとうといってもらくと、職員はもっともっと励むと思う。市民からのお電話等でもすぐに行って補修するなり、どうすればいいかという話をしている。それ以外に道路パトロール等でも頻繁に市内の道路を回って、必要な箇所は修理等をしている。今は道に穴が開いていたから車が傷ついたじゃないかといって市が訴えられる時代。こまめに道路の整備等も一生懸命職員はやってくれている。是非、何かお気づきの点があれば、ほめて育てていただければありがたいと思う。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）						
1 検討事項 1	<p>●アクセスをどの道から入ってくるかということと、地元の交通安全と地域住民の方々にとって、朝の時間帯によその車が入ってくるということは大変困る問題があるわけなので、警察とも少し話をさせてもらいたいと思っている。</p>	準備中						
3 検討事項 2	<p>●市が道路のことを（今おっしゃったようなことを）勝手にできない。警察がやったと思う。生活安心課を通して警察に話をする。なぜそういうふうになったのかを聞いてみる。</p>	<p>■お話のありました交差点については一点灯信号を撤去し一時停止標識へ変更することについて警察の交通規制審議会で一時停止を明確にすることで、承認を受けた交差点であります。 撤去するにあたり交差点の南側と北側で道路の幅が違うことから、今回、止まれの表示を明確化するとともに警察の指導により、狭い道路の幅に合わせるようオレンジのポールを設置しました。交差点に進入する車両（自転車を含む）及び歩行者の安全を確保するためです。この道路を通る近隣の皆さまにおいては、規制に従い、より注意をはらって安全を確認してから通行いただきますようお願いいたします。</p>						
7-2 検討事項 3	<p>●なかなか難しいところではあるが、大井川用水に言っておく。</p>	準備中						
8 検討事項 4	<p>●農業用水として流しているんだろうと思う。なので稲作、田んぼを使う時期は流すけど、それ以外の時期は水門が閉まっていて流れない。これはほかの地域でも全く同じである。もし汚水が流れ出ているとすれば、お宅の合併処理浄化槽のメンテナンスが必要だということになる、取り替えなければいけない状況になっているということになるが、都市基盤部には話をしておく。農業用水のことも絡むので、今、私から土地改良区などの関連もある中で回答はできない。水利権はすごく細かく決まっていて、行政が勝手にできるものでもない。こうした中で、伊太谷川の水が水門を開けて1年中流すことができるかどうか、そこのところだけ聞いてお答えする。水が来ない理由も含めてお答えする。</p>	<p>■農業用水は、営農に必要な水量として水利権水量が設定されています。伊太谷川から伊太川への農業用水の取り入れは、下記の水利権水量にあわせ大井川用水を管理している大井川土地改良区が、伊太川への取水の水門の調整を行っております。 冬場の農業用水は夏場に比べると非常に少なく、生活排水として地域全域の水路に水を回すことは出来ない現状であります。 また、農業用水を生活排水や防火用水のために、水利権を得て増量することは土地改良区では出来ません。 現状の少ない水量の中で生活排水として利用するためには、伊太川から各農業用水路への取水は農業者が行っていますので、農業者と町内会が協力し合い、水路別に輪番制で通水するのも1つの方法と思われます。</p> <p>◆伊太谷川4号取水口の水利権水量</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>4月11日～5月5日</td> <td>0.004m<sup>3</sup>/秒</td> </tr> <tr> <td>5月6日～6月5日</td> <td>0.192m<sup>3</sup>/秒</td> </tr> <tr> <td>夏季 6月6日～8月31日</td> <td>0.202m<sup>3</sup>/秒</td> </tr> </table>	4月11日～5月5日	0.004m <sup>3</sup> /秒	5月6日～6月5日	0.192m <sup>3</sup> /秒	夏季 6月6日～8月31日	0.202m <sup>3</sup> /秒
4月11日～5月5日	0.004m <sup>3</sup> /秒							
5月6日～6月5日	0.192m <sup>3</sup> /秒							
夏季 6月6日～8月31日	0.202m <sup>3</sup> /秒							

		9月1日～9月30日 0.190m <sup>3</sup> /秒 冬季 10月1日～4月10日 0.01m <sup>3</sup> /秒
11-1 検討事項5	<p>●ここにサルが出ましたという表示がしてもらえたらという話については、金谷も川根も初倉でもサルが出て、ベランダで日向ぼっこしていたとか、部屋に入って食べ物を取っていったとかということもあるが、サルはすごく大きく移動するため、写真まで撮って行政に届けてくれる方もいるが、なかなか捕獲が難しいということもある。そのうちにいなくなったり、あるいは捕獲に成功したというような時もある。ここにサルが出ましたというような表示ができるかということをやるとしたら農林課になるので話をしてみる。</p>	<p>■近年、サルの出没については、市内各地で確認されるようになっており、その都度、職員が現地に出動し、爆竹や花火等による追い払いやパトロールを実施しておりますが、何分、サルは神出鬼没で、あっという間に別のところに移動するため、捕獲するのは難しいのが実状です。</p> <p>サルが出没した場合、報告を受けてすぐにパトロールを行うとともに町内会や近隣の小中学校、幼稚園等に注意喚起の連絡を行っておりますが、「サル出没」の表示については、特定の場所に頻繁に出没するようであれば、設置を検討したいと考えております。</p> <p>サルを見かけたときは、近寄らないで、速やかに農林課へ連絡をお願いいたします。サルは、エサを求めて人里に下りて来るので、エサを与えることは絶対にしないでください。また、放置された果樹の収穫等、エサ場の解消について、地域の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。</p>